

各地区部会の検討状況（学校配置等）

1 全日制課程の配置等の方向性	1
(1) 普通科等	1
① 重点校	
② 普通科系の専門学科の在り方	
(2) 職業教育を主とする専門学科	3
① 拠点校	
② その他の専門学科の在り方	
(3) 総合学科	5
① 現状の評価	
② 今後の方向性（系列の見直し、学科転換など）	
(4) 異なる複数学科を有する高校の設置	6
2 定時制課程・通信制課程の配置等の方向性	7
(1) 現状の配置への意見	
(2) 工業科の方向性	
3 高等学校教育を受ける機会の確保のため配置する高校	9
(1) 配置の考え方	
(2) 募集停止等に関する基準の考え方	
(3) 募集停止等を行った場合の通学支援	
4 統合を検討する際、必要に応じて地域の意見を伺う協議会等	11
(1) 役割等	
(2) 委員構成	
5 魅力ある高等学校づくりに向けて	12

平成27年9月10日

1 全日制課程の配置等の方向性

(1) 普通科等

① 重点校

ア 重点校設置について

東青	<ul style="list-style-type: none"> ○ 重点校は必要である。 ○ 重点校の取組については、まずは重点校を設置し、その経過を見ながら臨機応変に対応していけば良いのではないかと。 ○ SGH、SSHはあくまでも国の事業なので、指定されないことも想定し、県の事業として体制を整備する必要がある。
西北	<ul style="list-style-type: none"> ○ 他地区との関係もあるので設置の方向で進めたい。ただし、6学級以上を標準としているが、地域の実情に合わせた学級数で配置すべきである。
中南	<ul style="list-style-type: none"> ○ 弘前高校、弘前中央高校、弘前南高校がそれぞれの特色を生かして欲しい。例えば、弘前高校は医師やグローバルリーダー等を目指す生徒を育成したり、弘前中央高校と弘前南高校もコース制により、理数教育等の重点校とすることなども必要ではないかと。 ○ 生徒数が減っているため、複数校設置することは難しい。地域が納得する学校を重点校とするのが良い。 ○ 中学生の希望は重点校や拠点校に集中するのではないかと。
上北	<ul style="list-style-type: none"> ○ 選抜性の高い大学への進学に対応した教科の開設等にも影響があるため重点校の設置は必然である。ただし、医学部進学に向けた取組は医学部医学科合格に向けた実力養成の議論であり、重点校とは別の議論ではないかと。
下北	<ul style="list-style-type: none"> ○ 下北地区において必要なのは、どちらかと言えば拠点校よりも重点校である。その設置により、子どもにとって夢を抱く一つの足がかりとなる。 ○ 重点校としては、6学級以上が望ましいと考えるが、地域の実情に照らし、近隣の学校と連携することにより、重点校の機能は5学級でも果たすことは可能である。
三八	<ul style="list-style-type: none"> ○ 重点校を設置することは賛成。少子化に伴う高校の小規模化という課題を解決するためにはオール青森の視点による6地区にとらわれない再編が必要である。

イ 重点校設置に伴う単位制、併設型中高一貫教育の方向性

東青	<ul style="list-style-type: none"> ○ 中高一貫教育の導入を検討する際には、何を目的とし、何を求めるのか明確にする必要がある。
西北	<ul style="list-style-type: none"> ○ 西北地区では、平成39年度までに10学級減の中で、重点校を設置し、維持するためには、単位制を大胆な学校経営につなげていくことも一つの方策だと考える。 ○ 併設型中高一貫教育については、生徒減少の現状を踏まえると周辺の中学校への影響が大きいことから、五所川原市内での導入は難しいと感じる。
中南	<ul style="list-style-type: none"> ○ 併設型中高一貫教育の魅力は感じるが、弘前市にはすでに弘前大学附属中学校があり、市立中学校のレベルや意識の低下に繋がるとの指摘もある。 ○ 弘前大学附属中学校があるために併設型中高一貫教育ができないのであれば、弘前大学とも話し合いをしながら検討を進めることも考えたい。
上北	<ul style="list-style-type: none"> ○ 併設型中高一貫教育については、選抜性の高い大学を目指すような学校でなければ厳しい。
下北	<ul style="list-style-type: none"> ○ 重点校に単位制を導入することは良いと思うが、その場合には、余裕を持った教員配置にしなければ実効性がない。 ○ 医師を志す生徒、就職を目指す生徒など、生徒の多様なニーズに応える観点から、全日制普通科単位制を拡充できないかと。
三八	<ul style="list-style-type: none"> ○ 学習意欲や興味・関心、能力等の多様な生徒が在籍するような学校では単位制は効果的だと思うが、ほとんどの生徒が大学進学するといった均質な生徒が多い学校では単位制を導入することは慎重になるべきではないかと。 ○ 併設型中高一貫教育については、功罪両方がないわけではないが、有効な制度である。

ウ 重点校以外の学校との連携の在り方

東青	○ 医師を志す高校生支援事業で三市の中心となる高校が中心校の役割を担い、実績を上げているのを見ると、このやり方はとても良いと思う。
西北	○ 重点校に入学しなくても、学校間の連携によって選抜性の高い大学への進学を目指す教育を受けられるのであれば、地域格差の解消にもつながる。 ○ 自分の学校だけが特色ある教育活動に取り組むのではなく、他校に対して指導的な立場になり、自分たちが得たノウハウを他校の生徒とも共有する必要がある。
中南	○ 重点校と他校の連携を考えると重点校を設置し、他校の底上げも果たしてもらいたい。
上北	○ 重点校や拠点校という形を取って、全ての学校のレベルを上げるということは非常に良いことである。
下北	○ 下北地区には交通の便が悪い地域にある学校もあるので、重点校と何らかの連携をしていくことが必要である。
三八	○ 重点校にならない学校にも重点校の恩恵が受けられるようにしてもらいたい。

② 普通科系の専門学科の在り方

東青	○ 普通科系の専門学科は、設置の目的や進路志望が達成されているかなど、これまでの取組を検証する必要がある。
西北	○ 理数科は理数系の大学を目指す子どもたちの目標になっており、全県的にも西北地区にしかない特色ある学科だが、教育活動の内容を整理し、理数科の今後の在り方を見極める必要がある。 ○ 理系の希望者が増えており、理数科では課題研究などを行うことから、今後の大学入学者選抜制度改革にも適合していけるのではないかな。 ○ 理数科を置いても、生徒の希望はそれほどではないということであれば、普通科で総合的に学習することとしても良いのではないかな。
中南	○ 普通科系の専門学科の意義は、その専門性を高めることにある。 ○ スポーツ科学科は中学生に人気がある。
上北	○ 普通科系の専門学科には、学科としてではなく、コースとして設けることで対応できるものもある。
下北	○ 普通科においても英語力を求められる中であって、英語科が特色を出すのは難しい。学校全体でグローバル化に対応できる取組があれば良い。
三八	○ 普通科の中で選択科目を増やすことで、英語科をはじめとする専門学科の学習に興味のある生徒に対応してはどうか。大きく言えば、普通科に収斂される方向で良いのではないかな。

(2) 職業教育を主とする専門学科

① 拠点校

ア 拠点校設置について

東青	○ 工業高校の拠点校としては、機械系・電気系・建築系・土木系の基本的な学科があれば社会のニーズにも応えられるのではないかな。
西北	○ 西北地区の産業構造は一次産業が中心であることを考えると農業教育の必要性がある。 ○ 工業高校と農業高校の2校を拠点校として残すことは難しい。 ○ 農業科や工業科の拠点校に生徒が進学するとなると、周辺の学校は一気に消滅してしまうのではないかな。 ○ 農業高校や工業高校などは、地区に根ざした教育という側面もあるが、県全体としてのバランスも考慮する必要があるのではないかな。
中南	○ 全てが拠点校になる必要はなく、どの学校を拠点校とするかは、各学校で話し合いが必要である。 ○ 青森市、弘前市、八戸市の工業高校を拠点校としてはどうか。 ○ 農業科は集約し、拠点校とならないとしても地域の拠点としての役割を果たしたい。
上北	○ 拠点校は必要である。地区の拠点校という考え方ではなく、オール青森という視点で、エリア毎の産業構造の特徴を生かしながら考える必要がある。 ○ 上北地区では、特に農業を大事にする必要がある。
下北	○ 拠点校は必要であるが、下北地区における将来の学級数を考えると、拠点校の設置は難しい。
三八	○ 地区に拠点校は必要であり、専門学科に関する基礎的な教育を地域の高校で担ってもらいたい。そのことにより人財や技術の流出が防げるのではないかな。 ○ 拠点校を作ってそのノウハウを波及させることができるならば、当地区については、水産科以外は必ずしも拠点校を置く必要はないと思う。

イ 拠点校以外の学校との連携の在り方

東青	○ 特に意見はなかった。
西北	○ 特に意見はなかった。
中南	○ 特に意見はなかった。
上北	○ 専門学科同士の連携によって、さらに学校の可能性は広がっていくのではないかな。
下北	○ 拠点校との連携としては、教員が拠点校に行って研修することや、人事異動により拠点校に在籍した教員を拠点校以外の学校へ配置することが考えられる。
三八	○ 拠点校とそれ以外の学校の連携は必要である。

② その他の専門学科の在り方

東青	<ul style="list-style-type: none"> ○ 意識調査等によると普通科志向が強いようだが、本県の産業構造や高卒後の進路を考えると、工業高校なども残しておくべきであり、普通科、専門学科の募集割合を大きく変える必要はない。 ○ 現状の東青地区の産業構造を考えると、工業高校は減らしても良いと思う。資格を身に付けても県外へ流出してしまう。 ○ 商業科で学んだことが、将来の職業にどのくらい繋がっているのか見えにくい。
西北	<ul style="list-style-type: none"> ○ 看護師資格を持っていれば、福祉の仕事にも従事できるので、福祉科よりも看護科の設置を考えた方が良いのではないかと。 ○ 現在のように普通科、農業科、工業科、総合学科といった様々な選択肢がある状況は望ましいが、生徒数の減少は明らかなので、将来も均等に残すことは無理ではないかと。 ○ 西北地区では現在、農業科、工業科を含め、全ての学科を選択できる状態になっているが、このような状態は段々と続かなくなっていくことから、どのような形で整備していくのかじっくり考えなければならない。
中南	<ul style="list-style-type: none"> ○ 地区の生徒数が減少していく中で、専門高校の学科も精査しなければならない。 ○ マーケティングや経理が分かる農業自営者を育成する必要がある。 ○ 工業高校は、基礎・基本をしっかりと身に付け、専門科目のレベルを上げる指導を行っており、大学への進学は、専門分野の知識・技能を活用した推薦入試による場合が多い。 ○ 中南地区の商業科は、これまで弘前実業高校と黒石商業高校が共存し、地域に根ざしてきたが、これからの生徒急減期を考えると両校の共存は難しい面がある。 ○ 看護科の卒業生は5～6割が県内に就職しており、関東に就職した生徒も大きな病院で経験を積み、いずれは地元に戻りたいという希望を持っている。黒石高校は北東北の公立高校では唯一の看護師養成施設であることから、重要性は高い。
上北	<ul style="list-style-type: none"> ○ 地域としては、少子高齢化に伴って、介護士や医師は将来的に必ず必要だろうし、専門職に就く人も必要になる。 ○ 学科に関しては、上北地区はバランスが取れていて、工業、農業、商業、食物調理科ともに必要だと思う。
下北	<ul style="list-style-type: none"> ○ ものづくりの感性を磨くには15～16歳の時期が最適であり、この時期に工業を学ぶ意義は大きく、下北地区に工業科は必要である。
三八	<ul style="list-style-type: none"> ○ 農業高校や工業高校からも大学に進学する生徒が増えてきていることを考えると、大学受験に対応した授業をしていくことが必要であり、確かな学力が求められている。 ○ 商業高校で何を学んでいるのか理解されていない部分もあり、中学校に対して情報発信をしている状況である。専門高校に行っても進学できるということをアピールすることが必要だと思う。

(3) 総合学科

① 現状の評価

東青	<ul style="list-style-type: none">○ 中学校卒業者のほとんどが高校へ進学している現在、14～15歳の段階で将来を見通している者は多くはない。その意味では、キャリア教育に徹底して取り組んでいる総合学科は時代を先取りしている学科であると言える。○ 総合学科については、県内に総合学科の高校が少ないこと、設置されてから年数があまり経っていないことなどから、中学生や保護者の理解度が低いのではないかと。○ 総合学科の取組はとても良い。総合学科がもっと増えれば良い。
西北	<ul style="list-style-type: none">○ 中学生にとっての総合学科は、入学後にじっくりと進路を見極めて、学習に取り組めるところに魅力を感じているようだ。
中南	<ul style="list-style-type: none">○ 特に意見はなかった。
上北	<ul style="list-style-type: none">○ 総合学科に進学し、自分の進みたい道が見つかった生徒もいる。
下北	<ul style="list-style-type: none">○ 下北の中学生のニーズに合っている。
三八	<ul style="list-style-type: none">○ 特に意見はなかった。

② 今後の方向性（系列の見直し、学科転換等）

東青	<ul style="list-style-type: none">○ 総合学科の高校において、教員の数と開設教科・科目を増やすことができれば、選択肢が広がり、生徒にとってより魅力が増すのではないかと。○ 多様な進路希望に対応するためには、教育課程を編成する上でも、教員定数においても、最低4学級は必要である。
西北	<ul style="list-style-type: none">○ 農業科、工業科の状況を見据えた系列も考えられる。○ 西北地区にある総合学科は普通科と商業科を合わせたような形である。
中南	<ul style="list-style-type: none">○ 全日制課程に総合学科を設置したいという意見はなかった。
上北	<ul style="list-style-type: none">○ 総合学科は、教員数、施設・設備の整備、経費がかかるため、中間まとめの記述にもあるが、見直しを検討する必要がある。
下北	<ul style="list-style-type: none">○ 生徒のニーズを考えると総合学科も選択肢の一つとして必要だが、より生徒のニーズを踏まえた系列となるには、施設・設備が不十分であり、総合的な判断が必要である。
三八	<ul style="list-style-type: none">○ もともと複数の学科を有した学校は、総合学科に転換しても系列が作りやすかったと思うが、普通科であった高校が総合学科になっている場合には、卒業後の進路の観点からも、もとの普通科に転換することも考えられるのではないかと。

(4) 異なる複数学科を有する高校の設置

東青	○ 商業科と工業科が一緒にあるような異なる複数の学科を有する高校の設置は賛成である。
西北	○ 子どもたちのためにも、農業科・工業科の選択肢は残してもらいたい。お互いの特徴を生かしたものづくり等における連携を図るため、農業高校内に工業に関する施設・設備を有した総合高校もあり得る。
中南	○ 農業高校と普通高校の統合はあり得る。必ずしも工業高校、商業高校が単独で残っている必要はなく、子どもの学びたい内容が学べる環境があり、また通学環境が確保されているということが重要である。 ○ 人口減少を考えると普通科、看護科、商業科の併置や、商業科の集約も考えなければならない。 ○ 普通科に他の学科を併置すると、学校行事等が普通科寄りになり他の学科が制約を受けることもあるのではないかと。したがって、複数学科を併置する場合は、専門学科を生かす在り方を検討する必要がある。
上北	○ 生徒数の減少に伴い、農業高校、工業高校、商業高校が4学級を維持できなくなった場合には、思い切って複数の学科を有する総合的な高校を設置すべきではないか。 ○ 農業校舎、工業校舎、商業校舎のように校舎が分かれて設置されても良い。
下北	○ 異なる複数学科を有した高校を設置する場合には、施設・設備に対する課題がない学科に絞られるのではないかと。 ○ 生徒数が減少していく中で、小規模校を残すよりは、複数の学科を設置した高校とし、連携した方がうまくいくと思う。
三八	○ 拠点校ではない学校は小規模化しているので、存続も危ぶまれることから、複数の学科を一つの学校にまとめることも視野に入れるべきではないか。 ○ 異なる学科の高校の統合により複数の学科を有する高校を設置することについては、学科によって施設・設備が大きく異なるため、教育環境を考慮する必要がある。

2 定時制課程・通信制課程の配置等の方向性

(1) 現状の配置への意見

東青	<ul style="list-style-type: none">○ 定時制・通信制の高校に入学する生徒は夢ややりたいことを見つけるのに少し時間がかかるだけで、可能性を持っている。卒業後に立派な社会人になっている姿を見ると、定時制・通信制が果たす役割は非常に大きいことが分かる。
西北	<ul style="list-style-type: none">○ 定時制課程には様々な課題を抱えた生徒が入学することから、手厚いケアが必要である。○ 夜間定時制の場合には、家庭の事情などがあり、一生懸命勉強したいという生徒が多いように感じるので、夜間定時制はなくして欲しくない。
中南	<ul style="list-style-type: none">○ 弘前市内から尾上総合高校を選択して進学する生徒もいるが、Ⅲ部（夜間）に通学する場合、帰宅は午後10時過ぎとなり、女子生徒は特に心配である。○ 尾上総合学校のⅠ部・Ⅱ部（午前・午後）は、発達障害等のある生徒の受け皿にもなっている。
上北	<ul style="list-style-type: none">○ 全日制課程の高校に通うことのできない不登校の生徒も進学しているという現実を踏まえて、定時制課程、通信制課程の充実に取り組んでもらいたい。
下北	<ul style="list-style-type: none">○ 定時制課程については、現状の配置を維持してもらいたい。○ 通信制課程は不登校を経験している生徒も多い。それらの生徒にとって通信制課程の存在は大切である。
三八	<ul style="list-style-type: none">○ 定時制は高校教育を受ける機会の確保として必要であり、6地区に置くことについても賛成である。

(2) 工業科の方向性

東青	○ 工業高校の定時制を目指している生徒が少ないことや、産業構造の変化や定時制課程で工業科目を履修する限界等についても言及してはどうか。
西北	○ 現状を踏まえると不要ではないか。
中南	○ 弘前工業高校定時制課程の生徒数は減少していないが、工業実習の対応が難しい生徒もいることから、普通科とすることも含め、在り方を検討する必要がある。 ○ 定時制課程の工業科は女子が希望しづらい。弘前市内の工業高校であっても、定時制を普通科に転換すれば志願者も増えると思う。 ○ 弘前工業高校の工業科を普通科に転換した場合、工業高校に工業科ではない学科を設置することになり違和感を覚える。
上北	○ 定時制課程の工業科については、工業実習の対応の難しさから、教員配置を充実できなければ廃止もあり得る。
下北	○ 工業科の定時制課程を見直すところがあるが、これが将来的に廃止という意味合いを含んでいるのであれば、工業高校の作業等の活動を通して成長を遂げる生徒がいることにも配慮して欲しい。
三八	○ 定時制課程の工業科については、生徒数が極めて少ない状況において継続していくのは難しいのではないかと。

3 高校教育を受ける機会の確保のため配置する高校

(1) 配置の考え方

東青	<ul style="list-style-type: none"> ○ 通学に1時間以上かかるなど、生徒が通学する際の距離的負担や、公共交通機関があったとしても、より保護者の経済的負担についても考慮すべき。 ○ 他の高校に通学することが困難な地域としては、東青では今別地区が考えられる。
西北	<ul style="list-style-type: none"> ○ 生徒が現在住んでいる地域も大事だが、生徒がどこの学校に進学しようとしているのか動態を見定める必要がある。 ○ 生徒数が減少する中で現在の全ての学校を残すことは難しいが、地理的条件により通学が困難な地域にある高校は残していくべきである。 ○ 西北地区の広さからして、通学できるのであれば問題ないが、広範囲にわたって高校のない地域は作って欲しくない。例えば、深浦校舎や中里高校については交通事情の問題が大きい。
中南	<ul style="list-style-type: none"> ○ 保護者としては学校選びの際、通学の時間や費用を考慮する。 ○ 定員割れによる高校の募集停止、統合についてはやむを得ないと思う一方、地域の高校はある意味、文化であり、地域の活力の面からも高校が存続できるかどうかに対する不安もある。 ○ 通学の問題で進学が危ぶまれるという状況は、中南地区に関してはあまりないのかもしれない。そういう意味では恵まれた地区である。
上北	<ul style="list-style-type: none"> ○ 上北地区は広域なので公共交通機関の事情、経済的公平性、距離、時間を考えて配置してもらいたい。そのことを踏まえれば、上北地区では六ヶ所地区がそれに該当するのではないかと。 ○ 進路の選択肢に恵まれていない地区の生徒、保護者が高校を選択するときに困らないようにすべきである。
下北	<ul style="list-style-type: none"> ○ 通学時間が1時間以上であるなど、生徒の通学に係る距離的負担を考慮してもらいたい。 ○ 地理的なハンディキャップや経済的問題を抱えている生徒がいるが、誰一人可能性を摘んではならず、現在ある進路の選択肢と同等のものが必要であると考え。 ○ 他校への通学が困難な地域としては、大間地区や川内地区が考えられる。
三八	<ul style="list-style-type: none"> ○ 募集停止については、高校に通学できない地域が生じないように配慮すべきである。 ○ 他の高校に通学することが困難である条件として、交通手段等が考えられる。

(2) 募集停止等に関する基準の考え方

東青	<ul style="list-style-type: none"> ○ 募集停止の基準を作った場合、その時点で該当してしまう学校も考えられることから、すぐに募集停止とならないように配慮し、地域住民が納得する基準を作った方がよい。 ○ 一定の生徒数が入学しなければ募集停止するという基準については、募集定員に対する割合という表現でよい。それが2分の1なのか3分の2なのかは検討する必要がある。
西北	<ul style="list-style-type: none"> ○ 基準の条件を満たしても、残すべき学校が出てくることも考えられるので、明確なものではなく、参考程度の基準とすべきではないかと。 ○ 生徒の入学者数が少ないといったやむを得ない場合には、統廃合を検討する必要がある。
中南	<ul style="list-style-type: none"> ○ 統合に関する基準があれば地域も仕方がないと思うのではないかと。 ○ 基準があるとそれが前提となってしまう。市町村教育委員会でも小・中学校の統廃合の基準があるが、地域の実情に応じて柔軟に対応しているので、県においても柔軟な対応が必要である。 ○ 学級数を減らさず高校においても35人学級を行うなどの検討をお願いしたい。
上北	<ul style="list-style-type: none"> ○ 基準は必要である。ただし、募集定員に対する入学者数だけで判断して良いのかということもあり、具体的な数字は検討が必要である。 ○ この基準は、募集停止や統合を話し合うタイミングを示したもので、直ちに統合ということではなく、協議会などを設けたうえで結論を出すべきである。
下北	<ul style="list-style-type: none"> ○ 募集停止に関する具体的な基準を示す必要がある。基準を示せば、理解する地域の人もいると思うが、学校がなくなることにに関して不満な気持ちはあると思う。 ○ 他県の例にあるように、入学者数が募集定員の2分の1に複数年にわたって満たない場合は、募集停止するということが一つの基準になる。
三八	<ul style="list-style-type: none"> ○ 他県の例のような募集定員に対する入学者の割合という形でよい。 ○ 2年後に募集停止といった猶予期間は、一見優しいように見えるが、将来の生徒数を考えれば増加することは考えにくく、子どもたちの教育環境を第一に考えるのであれば不要である。

(3) 募集停止等を行った場合の通学支援等

東青	<ul style="list-style-type: none"> ○ 郡部から青森市内の高校に通う生徒は、朝はコミュニティバスなどで通学が可能だが、帰りは部活で遅くなれば帰宅する手段がなくなってしまう。郡部校を統合する場合には、町としても生徒の通学支援策を考えなければならないが、まずは県が方向性を示す必要がある。 ○ 寄宿舎については、公共交通機関が不便な地域で学校を維持するため、県外の生徒を呼び込むなどの戦略の下、設置するのは良いと思うが、そうでなければ寄宿舎に入る生徒は少ないだろう。
西北	<ul style="list-style-type: none"> ○ 公共交通機関は郡部に行くほど便が悪くなるので、交通手段の配慮は公共交通機関だけではなく、スクールバス等を考慮する必要がある。 ○ スクールバスや奨学金等の支援により、保護者の負担を軽減して、子どもたちの希望する学校への通学が可能となる方策を検討する必要がある。 ○ 住んでいる地域によって切実感が違う。今は親が送り迎えすれば通学できる環境になりつつあるが、果たしてそれで良いのか。市だけではなく、県、国で別な形での支援が必要だと考えている。
中南	<ul style="list-style-type: none"> ○ 通学支援に関しては、市町村や家庭等に任せるのではなく、県の支援も必要である。
上北	<ul style="list-style-type: none"> ○ スクールバスは、市町村が単独で運行するのではなく、関係市町村が連携することも必要である。また、市町村の財政状況が疲弊している中で、県が主体となりバス路線の確保を要望し、維持してもらいたい。
下北	<ul style="list-style-type: none"> ○ スクールバスは必要である。また、部活の生徒のためには寄宿舎もあった方が良い。しかし、寄宿舎は生徒を管理することが難しいのではないかと。 ○ むつ市では、奨学金を貸与しているが、県としても国へ要望するなど働きかけてもらいたい。 ○ また、県の方針として通学支援を行うことも検討してはどうか。
三八	<ul style="list-style-type: none"> ○ 私立高校のスクールバスのように、保護者や生徒に負担が掛からない手段があれば良いのではないかと。 ○ 寄宿舎を利用したいという保護者もいるが、生徒は希望しない傾向にある。 ○ 全て県や市町村が支援することは確かに良いことだが、高校は義務教育ではないので、奨学金を貸与するというのを考えた方が良いのではないかと。 ○ 通学支援について、県や市町村との連携が必要である。高校は希望して入学していることから、生徒に対して全額補助は無理であり、不公平感のないような支援が必要である。

4 統合を検討する際、必要に応じて地域の意見を伺う協議会等

(1) 役割等

東青	<ul style="list-style-type: none"> ○ 生徒数が減少している状況の中で、学校の統廃合については地域関係者等ときちんと話し合っていく必要がある。 ○ 地域の方から意見を伺う協議会を設置しても感情的になり、意見集約は難しいことが予想されるので、説明するという方向で進めた方が良い。
西北	○ 特に意見はなかった。
中南	○ 協議会等という形がイメージしにくいですが、計画が決まってからではなく、計画が決まる前に市町村長の意見を聞いてもらいたい。
上北	○ 地域の意見を幅広く吸い上げる場として、学校の活性化につなげていくことが良いのではないかな。
下北	<ul style="list-style-type: none"> ○ 首長や地域の方々の意見を聞き、高校教育改革の必要性を説明し、理解してもらうことも必要であるが、協議会を設け、意見集約を図ることは様々な利害関係もあり難しい。 したがって、高校教育改革の必要性を理解してもらい、地域の意見を聞く場として設置することが大事である。
三八	<ul style="list-style-type: none"> ○ どのメンバーも平等な立場で意見を言い、それぞれの立場で問題点を発言した上で、数十年先を見据えた議論ができれば良い。 ○ 意見が直接反映される、されないに関わらず、広い範囲で意見を聞くべきである。 ○ 計画策定段階から地域の意見を聞くことが必要である。単に県教育委員会で計画したものを説明するだけでは、地域からの批判も多くなる。

(2) 委員構成

東青	○ 構成する委員については検討が必要。
西北	○ 地域の代表を構成メンバーとすることも考えられるが、県で一方向的に決めるのではなく、公募枠を設けることも大切である。
中南	○ 特に意見はなかった。
上北	○ 学校関係者、保護者に限らず、地域住民の意見が必要であり、偏った構成ではなく幅広い委員で構成してもらいたい。
下北	<ul style="list-style-type: none"> ○ 首長や地域の方々の意見を聞くことは必要である。 ○ それぞれの地域に社会福祉法人やNPO法人など地域に関わる組織があるので、そのような方の意見を聞いた方がより理解してもらえるのではないかな。
三八	○ 学校の当事者だけでは感情的になると思われることから、中立の立場であるとともに、その地域にある程度関係のある人が良いのではないかな。

5 魅力ある高等学校づくりに向けて

東青	<ul style="list-style-type: none"> ○ 全国からの生徒募集は、さらにいろいろな工夫が必要だと思う。 ○ 地域、PTA、大学生等と連携しやすい仕組みづくりが必要である。 ○ 重点校、拠点校としての機能を十分に果たすためには、教員配置の充実が必要。 ○ 小規模だからこぞできる取組もあり、そのような視点も大切にして欲しい。
西北	<ul style="list-style-type: none"> ○ 地域の高校を残したいという強い思いがなければ、魅力的な高校にはならないので、高校の魅力を発信してもらいたい。 ○ 地域的に小規模校を残さなければならない場合、大学進学に必要な履修科目に対応するため、遠隔授業も必要になると思う。 ○ このままではどの学校も規模を縮小するだけになり、デメリットが大きいため、より特色ある教育活動に取り組む必要がある。 ○ インクルーシブ教育システムについては、中学校としてもニーズは大きく、高校でも支援が必要な生徒は増えているのではないかと。
中南	<ul style="list-style-type: none"> ○ 高校教育を受ける機会を確保するためにも、学級数を減らさずに、全体でサイズを減らす方法として、高校においても県独自で35人学級を行うなど、検討をお願いしたい。 ○ 高校と高校だけではなく、高校と地域、高校と企業との連携も実施しているということを各高校がもっと情報発信すべきではないか。
上北	<ul style="list-style-type: none"> ○ 重点校、拠点校とするためには魅力ある学校になる必要があり、そのためにも教員配置を充実する必要がある。 ○ 1学級あたりの生徒数について弾力的な対応はできないか。 ○ 小規模校では、ICTを活用することも考えられるが、これが主になるのではなく人対人の教育が大切である。ICTを活用した研究を進めることで格差が埋まれば良い。
下北	<ul style="list-style-type: none"> ○ 生徒同士の交流が大切。また学校間での課外活動等の交流を通して情報を発信できると思う。 ○ 生徒が減少している中であって、様々な地域から生徒を募集することは良いと思うが、現実的には非常に難しいと思う。そのような場合には高校の所在する自治体の協力が必要になる。また、魅力ある教育課程を編成することが必要になる。
三八	<ul style="list-style-type: none"> ○ 中学生や小学生に対して、自分の住む地域の高校での学びについて情報を発信すると良いのではないかと。 ○ 全国から生徒を募集するのであれば、どの学校で全国募集を行うかということも含め、相当本気になって考えないといけない。